

群馬県立がんセンターで加療中の方へ

このたび群馬県立がんセンター 婦人科では、卵巣癌の病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた研究を実施しております。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守して研究を行います。

あなたの試料・情報について、本研究への利用を望まれない場合には、担当医師にご連絡ください。

研究課題

“進行卵巣癌患者の術前化学療法の意義について、治療成績と有害事象を後方視的に検討する”

研究施設

主任施設

群馬県立がんセンター

研究責任者 中村 和人

研究分担者 山下 宗一、木暮 圭子

共同研究機関

群馬大学医学部附属病院産婦人科

責任者：平川 隆史 分担者：西村 俊夫

高崎総合医療センター産婦人科

責任者：伊藤 郁郎 分担者：青木 宏

研究期間

調査対象期間：2009年1月1日から2015年12月31日まで

データ収集期間：倫理委員会承認時～2019年12月31日まで

研究対象となる方

2009年1月1日から2015年12月31日の間に治療開始前の診断で、卵巣癌3期と4期の患者。

研究目的

卵巣癌治療において術前化学療法の最大の目的は、手術による腫瘍の完全切除と合併症の発生を低く抑え、さらに患者の予後を改善することです。今回の研究では、術

前化学療法後の手術において、術後残存腫瘍をなくすことを予見できる要因を見つけることと、最適な手術を施行する時期を検討することを研究の目的としました。当院を含めた単一グループからの症例集積では解析に必要な症例数を確保することは困難と考えられるため、多施設共同研究として本研究を計画しました。

研究方法

診療録から以下の患者さんの情報を収集し、解析します。従って、患者さんには新たな負担は発生しません。

- 1) 治療開始前情報
年齢、血液検査結果（血中アルブミン、腫瘍マーカー：CA125）、PS、進行期、画像所見
- 2) 手術前情報
化療開始日、化療レジメンとコース数、手術直前の血液検査結果（血中アルブミン、腫瘍マーカー：CA125）、CA125 が nadir に到達するのに要した化療コース数、PS、画像所見
- 3) 手術情報
手術日、術式、残存腫瘍の有無と程度、組織型
- 4) 術後情報
術後から化学療法までの日数、化学療法の有無とレジメンのコース数、術後合併症、最終生前確認日、再発確認日、死亡された場合はその日

患者情報の保護

個人情報、試料、データ等を正確に検証が可能なように記録し、外部からのアクセスができない場所に保管します。公表の際には個人を特定できないようにして行います。患者の氏名、生年月日、カルテ番号、イニシャルなど患者が同定できる情報は用いませんが、追加調査が必要になる可能性もあります。その場合に備えて、各研究施設において符号を用いて患者情報を保管し、追加調査に対応できるようにする予定です。

研究成果の公表

本研究の成果は、提供者本人及び家族の氏名等が明らかにならないようにして、学会発表や学術雑誌等で公に発表することがあります。

問い合わせ先

373-8550 太田市高林西町 617-1 群馬県立がんセンター婦人科
中村 和人
電話 0276-38-0771 Fax 0276-38-8386